





























烈女おきみについて

今から二百十年程前白銀後町におきみ
 という人が住んでゐた夫の死後機織の
 手間賃仕事をし貧しいながら男の子を
 育てゝゐました氣質が温和で堅固な意
 志は再縁や誘惑に迷わず節操一途子故
 に生きぬいていつたのでした
 故意ある者お錢を贈つた処有難く思ひ
 ますが故なくして戴く訳にはまいりま
 せぬと其れを返し高潔をまげなかつた
 其の年の夏米価高騰しておきみ母子の
 生活も苦しさを増しあまつさえ子供が
 病氣に倒れるに至り隣のお婆が今の場
 合でこの木綿などを質に入れて薬を與
 え何時ぞやの人の心を受けてはと言え
 ば人様の物を質にし薬に米にして
 全し不義して家名を汚すは親ま
 訳なし例え

大木白山社

日後我が子
 織機の下に行儀よく居ず
 る母はうつむき眠るが如くにして此の聖な
 目おきみは時に三十二才であつた
 文化年間富田徳風先生は
 渴して盗泉の水を飲まず竹は焼けても
 節をそこなわず人は死して名を汚さず
 嗚呼貞烈婦女の伯夷かというべきか稀
 代の烈女稱するに餘りあり

志は再終 誘惑に迷わす節操一途に
に生きぬいていつたのでした。
故意ある者お錢を贈つた処有難く思
います。故なくして戴く訳にはまいりま
せぬと其れを返し高潔をまげなかつた
其の年の夏米価高騰しておきみ母子の
生活も苦しさを増しあまつさえ子供が
病氣に倒れるに至り隣の老婆が今の場
合その木綿などを質に入れて薬を與
え何時そやの人の心を受けてはと言え
ば人様の物を質にし薬に米にして命を
全し不義して家名を汚しては親夫に申
訳なし例えそんなことをして永く鐵鏡
をのがれるとは思れませんと力をげに
答えたしかし女の細腕病児を抱え母と
して断腸の思いをした事でしよう二三
日後我が子を抱くようにして其の身け
織機の下に行儀よく居すまい此の聖な
る母はうつむき眠るが如くにして餓死
してゐた夫作兵衛に死別してより五年
目おきみは時に三十二才であつた。
文化年間富田徳風先生は
渴りて盗泉の水を飲まず竹は焼けても
節をそこなわず人は死して名を汚さず
嗚呼貞烈婦女の伯夷かというべきか稀
代の烈女稱するに餘りあり感ずるに限
りなし。

又寺崎鰥洲翁(鉄砲町塚崎寺に私墓を有る翁は)
雪も白きを恥じ石も堅きを譲る
と詠まれてをります。

昭和三十三年四月

白銀後町









































表記のおきみの貞烈な思想に感じて寺
崎崎洲翁が白銀後町養老軒前(現在地)に
望遠の碑を建て、之を不朽に傳えんと
發願せられたが果さず逝去せられ其の
嗣子寺崎一貫翁は文化六年七月に孀婦
碑誌銘を作り石に刻して先代の遺志を
継うとせられたが果せられなかつたが
昭和十年町内の金田親從氏等同志相謀
つて淨財を集めて之を建立同年五月十
九日除幕式を挙げた。



















